

参加生徒が作成してくれた事後記事になります。

一般社団法人繊維学会

高校生研究発表会

2025/11/15(土)

@東京農工大学 東小金井キャンパス

私たちは、東京農工大学の東小金井キャンパスで開催された、繊維学会が主催する高校生研究発表会に参加しました。

対面発表とオンライン発表のハイブリッド形式での口頭発表でした。全 14 チームが参加し、その中には関東圏のみならず、関西・福岡方面から参加している高校生もいました。

私たちは大学の教授や企業の研究者の方の前で発表するのは初めてで少し緊張しましたが、本番は練習通りに発表することができました。



東京農工大学 科学博物館

学会に参加して学んだこと

準備編

事前準備で、発表資料を作ることで頭の整理ができました。スライドに実験の内容をまとめていくと、自分たちの実験に関する理解不足を実感して、考察などをもう一度練り直したりもしました。理論が通っていないところを先生から指摘していただいたり、二人で話し合っていったりする中で、自身の研究に対する曖昧さをなくしていました。

発表編

当日は、時間内に発表をすることができました。練習では規定時間を超えてしまうことがあったので、安心しました。限られた発表時間の中で、起承転結を持って聴衆にわかりやすく内容を伝える難しさを感じました。質疑応答についても、授業内で行った発表の反省点を生かし、落ち着いて回答できました。質疑応答の精度も更に上げていきたいと感じました。

聴講編

ほかの高校生の発表から学べたこともありました。まず何より「着眼点の斬新さ」です。例を挙げると、パイナップルの皮から耐熱性のある紙を作ったり、木炭電池ならぬ竹炭電池を作成したり、などです。中には、将来のキャリアプランのための一歩として研究している高校生もいました。同年代の人たちが行っている様々な研究を知ることで、自分たちの研究に生かせることもありました。

参加者のプレゼンのレベルにも驚きました。私たちは事前に作成した原稿の要点を覚えて、それを付け足しながら発表しましたが、中にはまるで原稿などないかのようにその場でスライドを指しながら話している人もいて、引き込まれました。自分の発表に対して自信を持ち、自身の研究について理解しているか、が大事になってくると思うので、残りの授業の中で自分たちの研究に対して、より理解を深めていきたいです。

このような「学会」に参加できる貴重な機会を得ることができて、本当によかったです。はじめは「学会」に堅苦しい発表会のようなイメージがありましたが、実際は和やかな雰囲気の中で、自身の研究をより深くしていくための意見交換をしていく場でした。休憩時間には参加者同士の交流もあり、とても楽しかったです。高校生のときに学校外で発表をする機会があったのは幸運でした。ヴェリタスの研究のみならず、今後の学生生活でも活かしていきたいです。最後に今回の学会への参加を後押して、サポートしてくださった先生方、繊維学会の関係者の皆様に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

当日の様子を写真でお届けします！

左上：発表会場は会議室ほどの広さでちょうどよいサイズ感でした👉

右上：私たちの発表の様子。できるだけ聴衆を見ることを意識しました。



左下：お土産もいただきました！学会誌・クリアファイル・メグリズム・ウェットティッシュ
右下：休憩中のお菓子まで用意していただきました。他校の高校生とも気軽にお話しできました！